

「高校生ニッポン文化大使」に任命 11月、パリで日本文化の魅力を発信

高校1年の蟹江菜々美さんが「高校生ニッポン文化大使2018」に任命され、11月にパリで縄文文化の魅力について発表を行いました。舞台はフランスで行われている「ジャポニスム2018」に合わせて開催された「縄文－日本における美の誕生」展。パリの高校生を前に日本文化の魅力を発信した感想を聞きました。

日本文化会館でプレゼン発表 フランスの高校生とも交流

「高校生ニッポン文化大使」プロジェクトは、文化庁と新聞社の主催で行われるもので、今年で二回目。蟹江さんは小さいころから日本史が好きで、フランスに行ってみたいとの思いから応募。作文などの審査を経て12人の「高校生ニッポン文化大使」のうちの1人に任命されました。

12人は8月に3泊4日の研修に参加。東京国立博物館で開催されていた「縄文展」で鑑賞ツアーを行い、レクチャーを受けたあと、フィールドワークやプレゼンテーション研修を受講。その後プレゼン審査が行われました。その結果、蟹江さんは上位3人に選ばれ、パリ派遣が決まりました。

フランスでは来年2月まで日本文化の魅力を紹介する文化イベント「ジャポニスム2018」が開催され、「縄文展」はその中心的展覧会の一つ。蟹江さんはパリの「縄文展」で高校生に向け縄文文化の魅力を発信しました。

蟹江さんが応募作文のテーマでもあった「伝えたい縄文の魅力」として挙げていたのは「縄文のアニミズム」。「アニミズムとは動物、植物や岩、川や木などすべてのも



金城学院高等学校 1年
蟹江 菜々美 さん

のの中に魂があるという自然崇拝の心のこと。わかりやすく伝えるために、例として挙げたのがジブリ作品です。フランスでも人気の日本のアニメを通してアニミズムを身近に感じてもらい、日本の文化の一つとして知ってもらいたいと思っています」と渡航前に抱負を語っていました。

パリの日本文化会館でのプレゼンテーション前日には高校訪問もあり、約200人の現地高校生とお互いの文化を紹介し合うなどをして交流。翌日の本番では約70人の高校生を前にプレゼンテーションを行いました。

蟹江さんは「計画通りにできたことや、聞いてくれた皆さんが縄文文化に興味を持ってくれたことがうれしかったです。前日の高

校訪問で知り合った人も会場に来てくれて、『縄文の精神が今も受け継がれているのは不思議に思った』と感想を聞かせてくれました」と発表を振り返ります。

プレゼン後はノートルダム大聖堂やルーブル、オルセー、ギメ東洋美術館も訪問。フランスの文化にもふれることができました。

蟹江さんは今回の体験を通し「パリの高校生の日本文化への注目度の高さに驚き、よく知っていることに感動しました。パリの高校生は積極的でフレンドリーで、質問もたくさんしてくれました。これからも世界の人々と交流するために英語をもっと勉強し、日本の歴史研究を続けて知識を深めていきたいです」と話してくれました。

得て、世界へ羽ばたく金城学院生

スポーツ庁の鈴木大地長官と面談し 東京オリンピックについて意見交換

高校生徒会長の西塚早咲さんが8月6日、スポーツ庁(東京都千代田区霞が関)を訪ね、鈴木大地長官にインタビューを行いました。高校生向けフリーマガジンの企画で実現したもので、2020年の東京オリンピックについて大学生や他校の生徒と一緒に意見交換を行いました。

オリンピックを自分ごととして考え 個性を磨くことの大切さ痛感

鈴木長官は1998年ソウルオリンピック100m背泳ぎの金メダリスト。バサロ泳法という背泳ぎの潜水泳法で知られ、現役引退後は指導者として活躍。現在は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の理事でもあり、2015年10月1日に設置された同庁の初代長官を務められています。

西塚さんは鈴木長官との面会を前にオリンピックについての質問を準備していました。用意したのはオリンピックと長官の関係性についての質問です。当日は大学生4人、西塚さんと名古屋大学付属高校の生徒、中学生1人の計7人で訪問しました。

西塚さんは「今回の対面まで鈴木長官のことはお名前を聞いたことがあるくらいで詳しいことは知りませんでした」と話します。「両親から話を聞いたり、選手時代のVTRを見て準備。知れば知るほど鈴木長官の凄さを実感し、緊張が高まりました」。

いよいよ鈴木長官にインタビューをする順番が回ってきて、西塚さんは「元オリンピック選手だったからこそスポーツ長官になられて役立ったことはありますか」と質問。鈴木長官からは「役に立ったことはあまりありません。でも、自分が金メダルを取っていることで、周りの人から顔を知られ、スポーツ選手だと認識されていることはスポーツ長官として有利なことだと思います」と話されました。

実際に面会をして感じた長官の印象は「背が高く、とても気さくな方でした。

金メダルも触らせてもらって感激です」と話す西塚さん。今回の面会で西塚さんはオリンピックへの意識が変わったといいます。「2020年に向けて最前線で準備を進めていらっしゃる方とお会いしたことで、オリンピックのニュースも身近に捉えられるようになりました。また大学生の皆さんの質問内容がとても深く刺激を受けました。2020年には自分には関係ないではなく、自分の未来のこととして考えていきたいです。オリンピック開催時にはたくさんの外国の方が日本にいらっやいます。観光客も増えると思うので、自分も英語を一生懸命勉強して、おもてなしに参加してみたいです」。

また西塚さんは「今回の経験を通し、どの進路に進んだとしても、これからは自分の個性をどうやって出していくか、磨いていくかが大切だと思いました」と話し、貴重な体験から得た学びを今後生かしていくことを心に誓いました。



金城学院高等学校 3年
生徒会長 西塚 早咲 さん